

## &lt; 随 想 &gt;

人間担任 (その3)

## K 先生 の 後 悔

教育相談部 坂 本 善 一

K先生、小職は共に教職歴30年。この秋、県教委より永年勤続の表彰を賜った。晩秋の宵、表彰記念の銀盃で一献かたむけながら、30年の来し方を懐かしんだ。酔うほどに、K先生、「どうしても悔やまれてならないことが、頭から消えない……。」という。

最近U子が結婚した——もう30歳をいくつか超えて、やっとのゴールインだ。このことを伝え聞いてK先生は、ホッと胸のつかえが取れた。

——ここ数年来、ゆきずりにU子と会うたびに、K先生は、「どうだい、いいお婿さん見つかったかい？」と声をかける。だが、U子は寂しい笑顔を残し、逃れるようにして立ち去ってしまうのである。もしや、あのこのために婚期が遅れているのではあるまいか—K先生は「あのときの、あのかかわり方が間違っていた…」と、悔やんでいるのである。

K先生は、U子が小学5年生のときの担任であった。経験の浅いK先生は、若さと情熱で、まさに体当たりで子供の教育に取り組んでいた。そのころU子はぜん息のため、体育や遊びが皆と一緒にできなかった。U子は、先生が友達を抱くようにして鉄棒運動の補助をしたり、校庭で友達とたわむれる姿をいつも寂しく眺めていたという。

そんなある日の午後、運動会の練習の時間、U子は教室の留守番役になった。練習も済み、終わりの会も済んで子供たちは下校した。ホッと一息ついたK先生は、自分の鞆を開けて、ドキッとした。昼前月給袋を確かにその鞆にほうり込んでおいたはず。それが見当たらないのだ。「まさか…まさかあの子が…」と、一瞬疑ったが、「とんでもない…あの子がそんなことを…」と、先生は心のたけりを抑えた。一時して、「なあに、あれは無かったものと思えば…」と、K先生は一切他言しないことにした。

次の日、さすがにK先生の表情はさえないのか、「どうしたの？先生」と、子供たちが心を痛めて先生にまつわりついた。つい、K先生は、「実は、先生、お金をなくしてしまった…」と、浅はかに

も告白してしまった。さあ大変、子供たちは、「皆で探そう。」「募金しよう。」「探偵団を作って犯人を捕えよう。」などと大騒ぎ。K先生は、下校時子供たちに「きっとだれかが見つけ、届けてくれると信じている」と話し、そして、「絶対に他言無用、お金探もしないこと。」を、子供たちと約束した。

それから1週間ほどして、クラスの3~4人の日記から、「U子が何千円もお金を持っていて、色々な物を買っている。それをもらった人もいる。」との内密の声が寄せられた。K先生は、ためらいながらも、ひそかに、いたわりの心を込めて、日記を通してU子に語りかけた—「だれにも間違いはある。その間違いに気づき、それを正すことができる人は『より強く、正しい心』の持ち主になれる。」ということ。

次の日のU子の日記に、“過ち”が告白された——いつになく乱暴な走り書きで、「ごめんなさい…私、友達がほしかった…先生とも思いっきり遊びたかった…」と。「子供がその人のお金を盗むことは、その人の愛情を盗むことなのだ」ということを聞いていたK先生は、日記の中で、U子の勇気をほめ、罪を論ずるとともに、U子をクラスの中で孤独にし、寂しい思いをさせていた、担任としての愛情欠損の大罪を、U子の前にひれ伏す思いでわびた。

残念なことに、U子のうわさは、級友にはもちろん、校内にも広まってしまった。U子の父からは、現金に添えて、恨みがましいわび状がK先生あてに届けられた。やがて、しだいにU子の表情にかけりが見え、笑顔が消えていった。

K先生は、なんとかしてU子の笑顔を取り戻そうと心を砕いた。が、しかし、U子の笑顔はついに戻らないまま、K先生はU子の担任を終えてしまったのである。

——そのU子が結婚したことをそく聞して、K先生はホッとしたのである。が、しかし、「あのことは、U子と二人だけで解決すべきであった…」と、深い悔恨の情に胸を痛めているのである。

子供への愛情欠損の大罪を、子供の前にひれ伏す思いでわびたというK先生。20数年を経て今もなお“子供への過ち”に心を痛め、銀盃に悔いの涙を落とすK先生。私はK先生の、この謙虚さと子供への愛に、人間担任の姿を見る思いがするのである。